

令和7年度公立等再編検討委員会 議事録

【日時】 令和8年3月25日午前10時

【出席】 関副委員長 大村委員 清原委員 太田委員 黒崎委員 益田委員 備海委員  
内田委員長 木村委員 村山委員 大隈委員 田川委員 坂本委員

【欠席】 松本委員

議題1 大津幼稚園民営化について

事務局より説明

(質疑応答)

委員：民間化されてから少し時間が経ちますが、現状、保護者や先生方からどのような意見が出ているか教えていただけますか。

事務局：当初、民間化への移行期には合同保育などの引き継ぎを行いました。公立時代の内容を継承しつつも私立園としての特色が出る中で、保護者の方に戸惑いや意見をいただくこともありました。その都度、園長先生から再度の説明をお願いするなど対応してまいりました。また、移行の際は、旧大津幼稚園の保護者から「以前と違う」という声もありましたが、町も介入して丁寧に説明を行いました。最近では、初期のような戸惑いの声はなくなり、また、以前から実施していた中学校との交流事業なども引き継がれており、現時点では円滑に運営されています。

委員：「公立保育との再編で目指すべき姿」の4つの柱の一つに「配慮を要する子どもへの支援」があります。今回民営化された大津幼稚園でもそうしたお子さんの対応はされるのでしょうか。私立・公立ともに対処の選択肢が増えるのは良いことですが、現状の対応状況や、公立でフォローすべき点があれば教えてください。

事務局：医療的ケア児については、現在は公立の大津保育園で受け入れています。私立園で希望があった場合は、受け入れ可能な体制がとれるか協議を行います。障がい児保育については、公立・私立を問わず受け入れており、加配として支援員を配置するなどして対応しています。

議題2：公立認定こども園の整備について

事務局より説明

(質疑応答)

委員：1月の住民説明会では多様な意見が出たようですが、その内容と対応を共有いただけますか。

事務局：1月は都市計画課と合同で説明会を行いました。主な意見は公園の樹木についてです。枯死の危険がある高木を間引く計画に対し、「思い出のある木をすべて切るのは困る」という声がありました。安全を優先しつつ、木陰を保ちながら間引く方向で、今後も住民の意見を聞きながら計画します。また、芝生広場に建物が建つことで「サッカーなどの遊び場が狭くなる」という懸念もありました。これについては都市計画課と代替りの場所を確保できないか検討中です。その他、夏場の水遊び場の要望や、「どんぐり広場なのにどんぐりがいない」という指摘もありました。これを受け、陣内幼稚園のどんぐりの木を新園に移設する計画を立てています。その他、防犯面については、部外者の侵入を防ぐフェンスや監視カメラの設置を検討しており、セキュリティラインを明確にします。説明会の議事録はホームページに公開しています。

委員：樹木の伐採については、枯死木による事故例もありますので、明確な基準を作って説明すれば住民も納得しやすいかと思います。

委員：以前、かぶとむし公園ではカブトムシが来るようクヌギを植えたらスズメバチが寄ってきた事例もありました。植樹する種類も慎重に検討が必要です。

委員：陣内幼稚園の園児たちの送迎が心配です。距離が離れることで、南部のほかの保育園などへ園児が移行してしまわないでしょうか。

事務局：3月議会の委員会においても議員から同様の質問がありましたが、現時点で町による送迎支援は行わない方針です。令和10年度の統合時に各公立園に在籍する園児は、統合後の公立認定こども園に移行することになりますので、入園時に説明し、承諾を得ています。ちなみに現在の陣内幼稚園の園児のうち、南小学校区のこどもは4割程度で、校区外から通われている方も多い状況です。

委員：支援施設の内容で、早期発見のための相談員は専任で配置されるのでしょうか。また、工事車両の安全対策や、駐輪場の整備、高齢者が休憩できるスペースの確保についても配慮をお願いします。

事務局：相談員は保育士をメインに専任職員を配置し、必要に応じてこども家庭センターなどの専門職と連携します。駐輪場やベビーカー置き場も整備予定です。工事車両については安全を最優先し、適切な説明を行ってまいります。

委員：公園入り口付近の見通しが悪く、車の出入りが危険に感じますが、拡張の予定はありますか。

事務局：周囲の状況から拡張は難しいため、カーブミラーの設置などで安全を確保出来ればと考えています。防災交通課と協議していく方針です。駐車場内では歩車分離を徹底します。

委員：一時保育や誰でも通園の事業はこども園と支援施設どちらの施設で行いますか。また、園庭から直接公園に出られる動線や、砂場のメンテナンス用の車両動線も確保すべきです。

事務局：一時保育等はこども園側で実施します。園庭から公園への直接の出入り口や、トラックが進入できるルートも現在図面に反映させているところです。

委員：1月の住民説明会に参加しましたが、将来の人口減少を見据えた施設のあり方や、安全面への質問が多く出ていました。今後は都市計画課や防災交通課とも密に連携し、住民の不安に的確に答えられる体制で説明会を実施してください。

委員長：事務局は、関係各課と連携し、わかりやすい説明に努めてください。

委員：8月と1月の住民説明会に参加しましたが、夏は安全面、特に工事車両と児童の動線や道路の狭さへの懸念が多く出されました。1月の説明会では、人口減少下での大型施設整備への疑問や、地域住民が活用できる施設にしてほしいという要望がありました。都市公園と子育て支援施設の内容が混同されている質問も多かったため、今後は都市計画課や防災交通課など関係各課が連携し、住民の質問にその場での確に答えられる説明会を要望します。

事務局：令和7年度の説明会の反省を活かし、令和8年度は庁内連携を強化し、担当者を揃えて分かりやすく説明できるよう努めます。本事業は、都市計画と福祉の共同事業ですので、誰が聞かれても同じ答えができるよう情報を共有し、説明会には適切な回答ができる担当者を出席させます。

委員：人口減少が前提となっていますが、道の駅付近の宅地開発などで子育て世帯が増える可能性もあります。将来的に80名程度の規模を維持、あるいは拡大する計画はあるのでしょうか。また、陣内幼稚園の令和10年閉園までの入園受け入れ状況についても、改めて明確に教えてください。

事務局：人口減少は課題ですが、大津町として持続可能な環境づくりを常に考えていま

す。新施設は80名から100名程度を受け入れられる規模で建設しており、今後の移住定住状況に合わせて柔軟に人数調整を行っていく考えです。陣内幼稚園については、令和10年3月まで存続し、その間の受け入れも継続します。ホームページにも掲載していますが、改めて周知します。

委員：公立高校の学級減や私立高校無償化の影響で、子育て環境は大きく変化しています。大津町は地価や資材費が高騰していますが、子どもが一定数確保されることで私立園の経営安定にも繋がります。町として子どもを真ん中に置いた政策と、定住の促進をお願いします。

事務局：産業や就職の場も含め、大津で安心して生活できる地域づくりを目指します。

委員：新施設の「全天候型の遊び場」について伺います。これは室内施設があるからそう呼ぶのでしょうか。公園部分の暑さ対策（木陰など）は都市計画側で行うのか、子育て支援側で外でも遊べる環境を作る予定があるのか教えてください。

事務局：全天候型とは、屋外の昭和園の遊具と、新設する支援施設内の室内遊具を合わせて昭和園全体のイメージです。屋外の暑さ対策については、芝生広場等での熱中症予防のためのミスト設置など対策を検討しています。非常に暑い日は支援施設内で遊び、涼しい時間帯に外を利用していただくなどの使い分けを想定しています。

委員：夏が長いので、4月から11月頃まで体を動かせる場所が必要です。室内遊具もそうしたニーズに応えるものを期待します。

事務局：支援施設内は0～2歳のゾーンと3歳以上のゾーンなどのゾーニングを行い、対象年齢としては小学校2年生くらいまでが登って遊べるような遊具を検討中です。

委員：支援施設の室内遊び場は、雨天時の園外保育などで他園が活用できるような規模感を想定していますか。

事務局：現在、200㎡強の広さを確保する計画です。常設遊具のサイズにもよりますが、他園の利用についても一般の利用者の状況等を確認しながら相談に応じたいと考えています。

委員：外部貸出については、優先順位や抽選などのルールをあらかじめ決めておくスムーズです。他園の子との交流は幼保小連携の観点からも有意義ですので、ご

検討ください。

事務局： 占用（貸切）は現時点で想定していませんが、安全面を検討した上で、開園までに利用ルールを整備します。

委員： 施設内に職員が配置されるのであれば、昭和園全体の防犯カメラのモニター機能をここに集約し、怪我人や不審者の早期発見に繋げることができると思います。そのあたりはどのように考えていますか。

事務局： 最新の AI 監視カメラは、人が倒れたことを感知してアラームを鳴らす機能などがあります。通知はスマホ等で共有すれば、園と公園管理者が連携して対応可能です。こども園の中（園庭含む）を中心に、顔認識技術を用いた不審者検知や園児の飛び出し防止などの最新システム導入を検討しています。

また、昭和園内の防犯カメラ整備については、昭和園リニューアル事業の中で検討していくことになると思います。

委員： インクルーシブという話もありましたが、例えば飛び出してしまうお子様もいると思うので、そういうところで園側はしっかり防犯も含めて、対応をお願いします。

事務局： 先ほどの AI カメラに関して言いますと、空間認知機能もありますので、飛び出しなどでもアラーム設定ができます。そうした機器も使いながら、併せて保育士たちの人の目での見守りも行い、事故や不適切保育を未然に防いでいきます。

委員： そういった機器は何か補助金が出たりするのですか。学校現場にもあるといいですね。

事務局： デジタル田園都市国家構想交付金などの補助金が活用出来ます。

委員： 新施設のスタッフとこども園のスタッフの事務室は別でしょうか。物理的に分かれていても、情報交換がしやすいソフト面での環境づくりをお願いします。

事務局： こども園と子育て支援施設のそれぞれに事務室を配置します。相談対応や安全確認のため職員を置きますが、両方の職員が連携し、相乗効果が生まれるような環境づくりに努めます。

（以上、閉会）